

DX時代の情報システム部門（組織・人）のあり方【オンラインライブ】（4125096）

デジタルトランスフォーメーション（DX）が叫ばれる中、社内情報システム部門は今後どのような役割を果たすべきか、また、組織内の人材はどのような知識を身に付け、いかなるマインドセットで臨む必要があるかについて、講師の32年のユーザ企業情報システム部門と直近8年のITコンサルタントの経験から、レクチャーさせていただきます。

開催日時	2026年3月3日(火) 9:00-16:00ライブ配信
JUAS研修分類	ビジネスアーキテクト(経営戦略・組織戦略・ガバナンス)
カテゴリー	共通業務(契約管理、BCP、コンプライアンス、人的資産管理、人材育成、資産管理)・セキュリティ・システム監査 専門スキル
講師	中山嘉之 氏 (株式会社アイ・ティ・イノベーション シニアコンサルタント、元 協和発酵キリン(現:協和キリン) 情報システム部長) 1982年より協和発酵工業(現、協和キリン)情報システム部で30年間社内システムの構築に携わる。 メインフレーム～オープン～クラウドとプラットフォームが変遷する中、14の社内アプリ構築でDBモデラー兼PMを務める。 2005年～は部門長兼ITアーキテクトとして活動し、2010年にエンタープライズ・データHubを中核とする疎結合アーキテクチャの完成に至る。2013年1月よりアイ・ティ・イノベーションにてコンサルティング活動を開始し、同年7月よりビジネステクノロジー戦略部を立ち上げる。近年、スパゲッティ&サイロ化した巨大システムを美しく整理されたデータ環境に徐々に移行してゆくモダナイゼーション手法を確立。既存システムの運用を妨げることなく緩やかに移行する様は現代の都市計画に酷似。仕事のモットーは”直観を大切にしたいアーキテクトたれ”。これからもユーザ企業目線を大切に、ベンダー中立にこだわり続ける。
参加費	J U A S 会員/ITC : 35,200円 一般 : 45,100円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	オンライン配信(指定会場はありません)
対象	情報システム部門の責任者・管理者 中級
開催形式	講義
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

ライブ配信 (Zoomミーティング) 【[セミナーのオンライン受講について](#)】

■テキスト

開催7日前を目途にマイページ掲載

■開催日までの課題事項

特になし

デジタルトランスフォーメーション（DX）が叫ばれる中、社内情報システム部門は今後どのような役割を果たすべきか、また、組織内の人材はどのような知識を身に付け、いかなるマインドセットで臨む必要があるかについて、講師の32年のユーザ企業情報システム部門と直近8年のITコンサルタントの経験から、レクチャーさせていただきます。

<主な内容>

CHAP1. 企業システムの向かう先

- ・情報システム部門の役割と技術の変遷
- ・近年の企業システムへの要請
- ・基幹系システムと新領域の融合
- ・企業グループ全体のITガバナンスを考える
- ・システムSCOPEのグローバル化

- ・ EAの可視化で複雑化する社内システムを管理

CHAP2. 次世代情報システム部門の役割と組織

- ・ パートナーとの役割分担とその方向性
- ・ 攻め：事業のデジタル化の牽引役に
- ・ 守り：企業活動の見張り役に
- ・ 次世代情報システム部門のケイパビリティ
- ・ 次世代情報システム部門の組織体制（理想像）

CHAP3. 情報システム部門内社員のあり方

- ・ 情報システム部門トップの目指す姿
- ・ 情報システム部門ミドル社員の知識レベル
- ・ 情報システム部門若手社員の育成

CHAP4. 情報システム部員のマインドセット

- ・ ポジティブシンキング
- ・ 大いに越境すべし
- ・ システムを”作る“ではなく”創る“へ
- ・ ユーザヒアリングのままシステムを作らない
- ・ コツコツと地道に継続する姿勢
- ・ 発想は大胆に実行は慎重に

■参加者の声

知らないことを網羅的にわかりやすく教えて頂いた。

基本的な考え方でもあるので、IT部門に属する人は受講する価値があると思った。

情報システム部門の組織能力向上や変革を目指す人、もしくは、それを支援する人にとってはヒントになると思う。